月刊 あなたにこの本を！ 平成20年6月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。

・・・字が大きめ　・・・中高生にも　・・・図・写真が多い

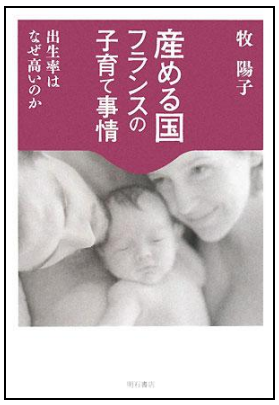
※価格のあとの（ ）内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。

サイコーですか？最高裁！

長嶺超輝　著
光文社　1365 円（0011555449）

ジャンル ： 知識・教養を深める

憲法の番人とも言われる最高裁判所。法治国家で重要な役割を担っている機関であるにも関わらず、その実態を知る国民は極めて少ない。本書では、その裁判のしくみから、建築構造まであらゆる角度から最高裁を丸裸にしていく。地下にはコンビニがある、最高裁長官は裁判をしない？　など著者の好奇心の赴くままに紹介される内容は、非常にユニークだ。巻末に最高裁全判事のプロフィールを収録しており、国民審査の際のガイドブックとしても有用。〔327.12〕



産める国フランスの子育て事情
ー出生率はなぜ高いのかー

牧　陽子　著
明石書店　1680 円（0011584087）

ジャンル ： 現代社会を見つめる

先進国の中でもフランスは近年特に高い出生率を誇る。過度の母子密着を嫌う育児観や、女性も仕事を通して自己実現する姿が当然と考える社会観など「産み育てやすい」要因は様々だ。本書は、日仏両国で出産・子育て経験のある著者が、両国の子育て事情の相違点にも触れながら、フランスの現状をリポートする。仕事を続けながら育児をする工夫や多種多様な託児方法なども紹介されており、日本にはない視点から子育てについて考える参考となる。〔369.4〕

子どもたちは象をどう量ったのか？
ー寺子屋の楽しい勉強法ー

西田知己　著
柏書房　1575 円（0011587625）

ジャンル ： 歴史・文化に親しむ

江戸時代の寺子屋で、子どもたちは何をどのように学んでいたのか。「読み・書き・算盤(そろばん)」といわれたその学習内容を、国語、算数、理科、社会の4教科と総合学習のかたちで再現したのが本書だ。四季の和歌を詠じたり、股(また)のぞきで木の高さを測ったりするなど、その内容は驚くほど高度。豊富に紹介される授業風景の絵図や、寺子屋の教科書の挿絵からは、子どもたちのいきいきとした姿と当時の授業の様子が垣間見えるなど、とても興味深い。〔372.1〕

暴走老人！

藤原智美　著　　ジャンル　：　現代社会を見つめる
文藝春秋　1050円（0011483845）
　近年、突発的なケンカで検挙される65歳以上の高齢者が増えている、と警視庁の統計が示している。歳を重ねると分別がつき穏やかになるという従来の考えは、今や間違いなのか。本書では、実際の事件を取り上げながら、「暴走老人」についてじっくりと考察をかさねる。芥川賞作家である著者の冷徹な筆致は、現代の新しい高齢者像を描き出すと同時に、人と人とのかかわり方が根底から変化しつつある社会の様子を明らかにしていく。〔367.9〕

マイ・ベクトル　夢をあきらめないで

三戸　学　著　　ジャンル　：　生き方・考え方に学ぶ
グラフ社　1299円（0011596409）
　著者は、障がいをもつ、秋田県の公立中学校の数学教師だ。何気ないきっかけから教師になろうと決心した彼は、大学時代には家庭教師を切望するあまり、無料でやりますと宣伝したこともある。当時の思い出や夢をかなえてからの授業の様子、生徒との交流、さらに趣味のスポーツなどが明るく淡々と語られる。「あるがままに自分らしく」を大切に、他人への理解に努め、感謝を忘れない著者からは深いやさしさと強いメッセージが伝わってくる。〔370.4〕

数学でつまずくのはなぜか

小島寛之　著　　ジャンル　：　知識・教養を深める
講談社　756 円（0011573202）
　元数学教師でエッセイストでもある著者が、子どもたちとの体験をもとに、数学について語る。マイナス掛けるマイナスがなぜプラスになるのか。計算式では理解できても、実際には理解しにくい事柄を、実例を用いてわかりやすく解説する。さらに代数や幾何など、数学で子どもがつまずく点に着目し、科学史や哲学、教育学のあゆみを紹介しながら解説を試みる。自分たちの身のまわりのことから、数学とは何かを楽しく知ることができる。〔410.7〕

なぜケータイ小説は売れるのか

本田　透　著　　ジャンル　：　現代社会を見つめる
ソフトバンククリエイティブ　735円（0011591808）
　200万部を超えるベストセラーになったり、映画化されるなど、今話題のケータイ小説についてライトノベル作家の著者が論じる。代表的な作品をいくつか紹介し、どのように発表され注目されるようになったのかといったプロセスを分析する。さらに、作家と読者への取材をとおして、「ケータイ小説における真実の愛とは？」など、独自の切り口で論が展開される。新しいジャンルの小説について、馴染みのない世代にもわかりやすく解説された一冊。〔910.26〕

音をたずねて

三宮麻由子　著　　ジャンル　：　暮らしにうるおいを
文藝春秋　1995 円（0011566255）
　幼いころに視力を失った著者が、心の中に響き続けている音の源泉に足を運び、感じたことをつづったエッセイ集。ピアノの製造工場や時報のお姉さんなど、実際に音や声が生まれるところを訪ねた著者の軽やかな文章からは、本当に様々な音が聞こえてくるようだ。また音だけでなく、それらを生み出す人々のぬくもりまでも伝わってくる。音が洪水となってあふれている現代だからこそ、心の奥底に流れ続ける優しい音に耳をすましてみたくなる。〔Eサンノ〕